

ものが多い。また最近2~6時間程度の周期で脈動現象を呈することも知られてきたので、特異の現象が現われたときには連続観測で監視しないと重要な変化を見のがしたり、あるいは誤解したりする危険性があることが指摘される。同一のエコーパターンでもこれが集中豪雨に発達する場合とそうでない場合がある。その判断をするためには、力学的な条件を同時に考慮しなければならないであろう。その意味で他の気象要素の分布変化を同時に考慮する必要があると考えられる。将来の予報の体制として、少くとも地上気圧および風の場が、即時解析されてレーダによるインフォメーションを裏打ちしなければならないであろう。集中豪雨においてバンド状の構

造が最近特に強調されている。小は数10km程度の積雲の列状構造から大は数千kmに及ぶ前線・湿舌といった現象に至るまで、飛行機・レーダ・気象衛星など新しい観測技術の発展に伴い新しい知識が続々と積み重ねられてきている。これらを説明する理論は、2,3の試みがあるだけで全く完成されていない。恐らくは何らかの不安定作用があって、これが目に見える形となつて現われているのであろう。集中豪雨のなぞの重要な部分がこの中にかくされているのかも知れない。そのような観点から、基本場における力学的な特性、たとえば水平・鉛直の風のシヤア、温度傾度など注意深く検討して、解析的な知識を積み上げ理論の発展に役立てる必要がある。

昭和45年度日本気象学会賞候補者の推薦募集

昭和45年度の日本気象学会賞候補者を審査する学会賞候補者推薦委員は下記の5名が指名されました。委員会は学会賞受賞者選定規定(天気15巻4号51)にもとずいて審査を行ない、候補者を理事会に報告します。この審査の資料として、例年の文書による推薦依頼と平行し、ひろく会員の推薦を募ることとしました。

最近5年間の気象集誌に重要な研究を発表された会員を下記要領によって推薦することをお願い致します。

締切 昭和45年2月20日

送付先 (〒100) 東京都千代田区大手町1の7 気象庁内 日本気象学会 日本気象学会賞候補者推薦委員会

記入事項 1. 推薦する業績(題名, 誌名, 巻号頁年)
2. 候補者氏名(ふりがな付) 3. 候補者生年月日 4. 候補者の勤務先及び地位 5. 推薦理由(400字以内)
6. 推薦者氏名印 7. 推薦者の勤務先及び地位 8. 推薦者連絡先(住所及電話番号)

昭和44年11月27日

日本気象学会賞

候補者推薦委員会 山元竜三郎
磯野 謙治
北川信一郎
小平 信彦
須田 建

日本気象学会賞受賞者氏名簿(カッコ内数字は受賞年)
井上 栄一(29), 小倉 義光(29), 黒岩 大助(30), 村上多喜雄(30), 沢田 竜吉(31), 佐々木嘉和(31), 都田 菊郎(31), 平尾 邦雄(32), 田尾 一彦(32), 須田 建(32), 朝倉 正(32), 磯野 謙治(33), 山元竜三郎(33), 北川信一郎(34), 小林 正治(34), 伊藤 宏(34), 増田 善信(34), 毛利圭太郎(35), 小林 禎作(35), 駒林 誠(36), 笠原 彰(36), 柳井 迪雄(37), 荒川 昭夫(38), 竹内 清秀(39), 樋口 敬二(40), 立平 良三(41), 高橋 劭(42), 浅井 富雄(43), 松本 誠一(44), 二宮 洗三(44).